

いきいきライフ

ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30～ 7:00 放送
 毎週土曜日 17:15～17:45 再放送
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz
 嶺南 1557kHz / FM 93.6MHz
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



越前水仙

令和四年十二月

もくじ

● 十一月四日放送（第三十六回）

防災を難しく考えないで……………

2

福井県防災十会（福井市防災士の会）

理事 飛田 幸平

● 十一月十一日放送（第三十七回）

「ころに残る聖書のことば」

「走り寄る神」……………

4

福井自由キリスト教会

主任牧師 山本 義武

● 十一月十八日放送（第三十八回）

福井に伝わる笏谷石の魅力……………

7

ふくい笏谷石の会代表 東

正一郎

● 十一月二十五日放送（第三十九回）

越前海岸の水仙畑を未来へ！……………

9

福井市立郷土歴史博物館

学芸員 藤川 明宏

● 感想文のコーナー……………

12

● 文芸欄……………

16

■十二月四日放送（第二十八回）

防災を難しく考えないで

福井県防災士会（福井市防災士の会）
理事 飛田 幸平

【はじめに】

近年、新聞、テレビ等から頻繁に「防災」「減災」「危機管理」という言葉をよく耳にし、同時に「自助」「共助」「公助」の言葉があるのはご存知だと思います。

「防災」と聞くと固くとなえがちですが、あまり難しく考えずに。肩の力を抜いて理解してもらい、災害時には、まずは自分の命は自分で守る、次に家族、隣近所で声を掛け合い、共に助け合うことが大事です。

【災害から身を守るためには】

災害への備えには優先順位があります。

- ① 死なない ② 大けがをしない
- ③ 安全に避難をする ④ 家族同僚、ご近所さんの安否確認
- ⑤ 当分の生活に困らない ⑥ 関連死を避ける

いずれの災害も①と②ができ

なければ、それ以降の備えはすべて無駄になります。

「防災」という言葉が意味するのは、「災害で命を落とすな」ということです。

そのためにも地震が発生した場合は、

- ① 揺れている数十秒から1、2分間に自分の命を守るために身を構えること
- ② 沿岸部の方は、揺れが収まったら津波の心配をしてすぐ高台に避難すること
- ③ 地震の後には、火災の発生を未然に防ぐため、火を使用中は慌てず消すとともにブレーカーを落とすこと

以上三つのことを肝に銘じてください。

また、台風、洪水、水害等に対しては気象情報などであらかじめ予想ができますので、その後の行政からの災害情報を入手し、早めの避難が必須です。

しっかりと自分の命を守ってください。

【情報を早く入手】

災害に遭ってけがもなく安全に避難ができた時、次にみなさん、何がほしいでしょうか？食料、避難所での場所取り、毛布の確保、着るものでしょうか？違うと思います。

災害時には、公共機関、マスコミから情報も入りますが、それよりもやはり、自分が生きていくことの証を家族に伝えたい、また愛する家族の安否を知りたいことだと思います。家族の安否がわからずに避難所にいることは一番の不安です。



そのための情報源として携帯にSMS LINE facebook Twitter)を活用することが有効な手段です。「私はもうこういったものは使えない。」とあきらめずに文明の利器を大いに活用すべきです。わからないときは、若い人に教えてもらいましょう。得意満面に教えてくれますし、ここでもコミュニケーションが図れます。

【地域のつながりの重要性】

「自身をはじめ家族も大丈夫とわかった時、次にするべきことはお隣さんの安否確認や助け合いなどの「共助」です。日頃から向こう三軒両隣という小さな助け合いの輪で、「近所づきあい」コミュニケーションがあれば、いざというとき大きな力になります。

たとえば、隣に住む一人暮らしのおばあちゃんから「今日から3日間、東京に嫁いだ娘さんの所に行って留守にします。」との情報が事前に入っただけで災害発生時には、安否の確認の大きな情報源となります。この小さな輪が集まって結果的に自主防災会全部、地域全体が救われるという結果になります。

これからは、「近所」という言葉を聞いたら互いに近くの人を助ける「互近助」と覚えてください。

どうか、今日を境に、日頃から隣同士で声を掛け合うこととの重要性を理解していただき、震災が万が一発生したなら、自主防災会の会長さんに全てを任せる防災ではなく、

みなさん一人ひとりが地域の「員」として「つなぐ」ときに今まで培ってきた豊富な経験をもとに的確な指示を出すことを実践してください。

被災時は、「被災者の立場」から率先して「救助者」に変わる事が重要です。

いきいきライフを聴講されてるみなさんならきっとできると確信しております。

講師略歴……飛田 幸平(ひだ こうへい)

福井県防災士会理事、福井市防災士の会事務局長、第一防災株式会社取締役専務

昭和51年3月

国立福井工業高等専門学校卒業

平成24年4月

福井市総務部危機管理室長

平成26年4月

福井市総務部危機管理対策監

平成28年4月

公益社団法人ふくい市民国際交流協会常務理事

平成30年4月

第一防災株式会社取締役専務に就任

【主な活動】

平成7年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」においては、福井県緊急消防援助隊員の連絡員として、神戸市と神戸市消防局の連絡調整等の業務にあたる。

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」では、発災当日に岩手県陸前高田市に赴き、福井県緊急消防援助隊第一隊長として隊員83名の陣頭指揮を執り、人命救助活動の任務にあたった。

多くの県民にわかりやすい防災をテーマとして各地区の自治会、各種団体等を対象に講演活動を行っている。

【現在の活動等】

公益社団法人ふくい市民国際交流協会理事、福井男女共同参画ネットワーク理事、福井県防災士会理事、福井市防災士の会理事兼事務局長、一般財団法人日本防火・防災協会専任講師、保護司、安居地区公民館運営審議委員、越前朝倉曲水の夏実行委員会専務理事

■十二月十一日放送（第二十七回）

「いじろに残る聖書のこぼれ」 「走り寄る神」

福井自由キリスト教会

主任牧師

山本義武

「聖書」

「世界で一番売れている本」といわれる聖書。聖書は、新約聖書と旧約聖書から成っています。旧約聖書は紀元前における人々の神への信仰の歴史を中心に記されていて、新約聖書はイエス・キリストの生涯や初代キリスト教会の信仰の歩みについて記されています。また、「金太郎飴のように聖書はどこを切ってもイエス・キリストについて記されている」と聞いたりしますが、イエス・キリストの生涯と十字架には大きな意味があることが分かります。



聖書は「かつて・そこで」記された書ですが、私たちにとって「いま・ここで」読み解く必要があります。今回、イエス・キリストのたとえ話から、是非、聖書を学んでいただきたいと思えます。

イエス・キリストはたとえ話の天才と言われるほど多くのたとえ話をされました。短いたたとえ話から、神の国について、また人生について数多く教えられました。

「放蕩息子(失われた人)の話」(ルカの福音書15章11節～32節)

ある人に息子が二人いました。弟息子が父に遺産の生前分与を申し出て、父が応じました。「自分は自由になれる」「成功してやる」「自分一人でも大丈夫」と思ったのでしょうか、弟息子は半分に分け前を持って遠い国へと旅立ちました。

しかし、遠い国で弟息子は財産を湯水のように使い果たし、彼の人生は転落していったのです。さらに、その地につききんがあり、一層みじめな生活をするようになりました。そこで彼は我に返りました。父の家の雇い人の一人としてでも受け入れてもらおうと。弟息子は父の家に帰って行きました。

ところが、父は遠くから彼に気づき、走り寄って迎えました。毎日毎日、弟息子のことを案じて帰ってくる道を見ていたのでしょう。父が弟息子を哀れに思い走り寄る姿が想像できます。弟息子は自分の過ちや悔い改めのことを言いますが、父は息子のことを聞いてすべに、家のしもべたちに最上の着物や指輪、はきものを用意させて、宴を開くように言いました。父は弟息子を、雇い人ではなく従来のように息子として招き入れたのです。

その一方で、父と一緒に暮らしていた兄息子は面白くありません。宴会の騒ぎで何事かと思いきや、弟が放蕩の限りを尽くし落ちぶれた姿で帰ってきたにもかかわらず、父はそのことを赦し、宴会をしていることを聞くのです。兄息子は家に入ろうともしませんでした。

父は、兄をなだめました。弟息子のことを「死んでいた息子が帰ってきた、いなくなっていたのに見つかった」と言い、だから喜ぶのは当然だと言いました。

「父と息子」Ⅱ「神と人」

この話で、父と息子は誰のことを指していると思われるでしょうか。それは神と人のことです。当時、この話を聞いた人たちはすぐに分かったようです。今の私たちにも理解できると思います。父から離れて好き勝手な人生を生き、また挫折する弟息子は、イエス・キリストを非難した人々や神から離れた人々のことです。

イエス・キリストは、どんな人でも悔い改めて立ち上がり父のところへ帰るならば、父は走り寄って赦して下さいることをたとえで語りました。人が神のところへ帰っていく感動的な姿です。

また父は、嫉妬してすねている兄息子にも、決して突き放さず、家に入ろうともしない彼をなだめて「自分のもの

は全ておまえのものだ」と励ましています。父と一緒に暮らしていたにもかかわらず、兄息子もまた、父の愛、懐の大きさを知らずに生きてきた失われた息子でした。そんな息子たちを招き入れる父の姿、神の姿がここにあります。

「神の赦し、神の愛」

悪いことを決して見過ごしにはしない神であることが聖書から知ることができます。人々の罪の代わりとして動物をささげる規定とそのように行なったことが旧約聖書に多く記されています。

神のところへ帰ったら「コラー！」と怒られはしないかと思うのは私だけでしょうか。弟息子は我に振り返り立ち上がって父のところへ向かい、父の赦しを受け、赦されたことを知りました。すでに父の側では赦しの心があつたと理解できます。失敗したら、間違ったら罰を受ける、訓練が必要である、と私たちは思いがちですが、父の姿として登場した神は、私たち人間が思っているよりもはるかに大きな「愛」の存在であると言えなくらいです。

聖書の中に多くの有名なことばがありますが、その中でも大切なことばをご紹介します。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書3章16節

聖書には、人の罪や過ちを見過ごしにはされない神が、その罰を人が受ける代わりに、イエス・キリストが身代わりとして十字架で罰を受けたことを記しています。神の側として、すでに十字架によって赦しが備えられていることを記しているのです。十字架を通して、走り寄る神の愛を聖書は語っています。

原稿における聖書引用箇所

聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会

ヨハネの福音書3章16節

聖書ストーリーの内容:

ルカの福音書15章11〜32節



聖書



講師略歴……山本 義武(やまもと よしたけ)

福井県勝山市生まれ。中学三年生の時、勝山自由キリスト教会で洗礼を受ける。福井大学工学部で建築を学ぶ。その後、放蕩の人生を送るが、絶望感の中で再び聖書のことばに励ましを受け、関西聖書学院に入学。卒業後、岐阜純福音教会、勝山自由キリスト教会で働く。教会の働きを一旦中断し、現福井コンピュータアーキテクト株式会社に入社。建築CADのインストラクター、営業として岐阜県を中心に中部エリアで10年間働く。2017年、福井自由キリスト教会から招きを受け、牧師として着任。現在に至る。三人の子どもの父。ドライブやスポーツ観戦、パソコンや家電など電化製品が大好きな牧師。

■十二月十八日放送(第三十八回)

福井に伝わる笏谷石の魅力

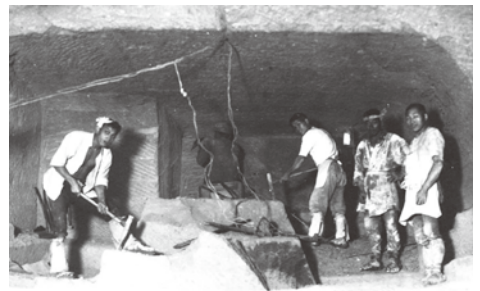
ふくい笏谷石の会代表 東 正一郎

福井県福井市の足羽山山麓に産出する笏谷石(しゃくだにいし)は、古代から人々に利用されてきた長い歴史と、北前船によって全国各地に運ばれ広がった遺産を残しています。そして、笏谷石は今も身近にあり、この土地に生まれ育ち、暮らす私たちは、この笏谷石に強い愛着を持っています。ふくい笏谷石の会は、福井の文化遺産である笏谷石の魅力を伝えることを目的に活動している市民活動団体です。

青く美しい越前の名石「笏谷石」。笏谷石の歴史と文化は、笏谷石のふるさと「足羽山」から始まります。



笏谷石は、今から約1700万年前、日本列島をゆり動かすような激しい火山活動によって噴出した火山灰や火山礫が、さまざまな力や熱を受けて固まってできた火山礫凝灰岩です。淡い青緑色をしているところからグリーンタフとも言われています。



坑道で採掘する石工たちの古写真

ます。この笏谷石が含まれる笏谷石凝灰岩層の厚さは約100メートルほどもあり、大規模な火砕流の噴出により堆積したと考えられています。足羽山地下の採掘跡では、石工たちの間で「雲」と呼ばれる堆積境界が見られます。この「雲」は、大規模な火砕流の休止期にあたる静穏な環境での堆積物と考えられ、下位の美しい青緑色をした「青手」の笏谷石と、上位の暗紫色をした「黒手」の笏谷石の境界に位置しています。

足羽山の笏谷付近を中心に産出された笏谷石は、やわらかい、きめが細かい、加工しやすい、色が美しいなど、多くの長所を持っています。

笏谷石の利用の歴史は、発掘された石棺などから、古墳時代にまでさかのぼることができます。そして、中世、朝倉氏時代に優れた石造・石彫文化を開花させました。また、室町時代から江戸時代の城づくり、福井城下の町の建設にも大量の笏谷石が使われました。加えて、大名や豪士、商人たちの権力や財力と海運をもって広く伝播され、優れた石造り文化、笏谷石の文化圏ともいえる遺産を日本各地に残しています。



坂井市三国町 滝谷寺の「火伏の竜」



福井市瑞源寺 藩主松平昌親公のお墓



北海道松前町 松前藩歴代藩主の石廟



和歌山県高野山金剛峰寺 越前松平家石廟

近世、笏谷石は足羽川から九頭竜川を下り、三国湊に運ばれ、そこから西廻り航路の北前船によって日本海沿岸の各地に運ばれていきました。加賀、能登、越中、越後、出羽、陸奥、北海道へと、その範囲は広く、優れた石造り美術が

日本各地に残されています。これらは、北前船によって全国各地に運ばれ広がった壮大な笏谷石文化圏ともいえる遺産です。

このように笏谷石は、越前の人々の力によって、日本でも屈指の石文化「笏谷石文化」とも呼ぶべき石造り文化を現出させたのです。

遠い祖先から伝承されてきた笏谷石は、今も福井に暮らす私たちの身近な暮らしの中で、さまざまな形で使われています。神社やお寺の地覆石や石段、家屋の敷石や屋根の棟石、玄関の床や沓脱石、井戸や浴室の床、また流しや漬物石などの生活用品としても利用されました。各地に残る多彩な石造り美術も多く見られます。

笏谷石は、打ち水をするると鮮やかな青緑色が浮かび、その風情が多くの人たちに好まれてきました。冷たい石なのに「温かい感じ」のする笏谷石は、時代を超えて私たちの豊かな精神文化を育んできました。

講師略歴……東 正一郎（あづま しょういちろう）

1957年福井市生まれ。ふくい笏谷石の会代表／福井市木田公民館館長。横浜放送映画専門学校（現日本映画大学）卒業。福井市職員として教育委員会などに勤務。「笏谷石造りをたずねて」著者の故大久保まご子さん、映画監督の故姫田忠義さん、そして笏谷石に関わる様々な人々との出会いから、2001年民族文化映像研究所作品「越前笏谷石く石と人の旅」の製作に関わる。

■十二月二十五日放送（第三十九回）

越前海岸の水仙畑を未来へ！

福井市立郷土歴史博物館 学芸員 藤川 明 宏

令和3年3月、「越前海岸の水仙畑」が福井県内で初の重要文化的景観に選定されました。私はこの福井を代表する景観を未来へつなげる活動をしています。

1、重要文化的景観とは

平成16年の文化財保護法の一部改正によって追加された、新しい文化財の分野です。条文では「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されています。簡単に言うと、自然景観ではなく、人の営みによって作られた景観のことで、例えば

柵田の風景のようなものが

これに該当します。この文化

的景観のうち、地域を代表す

るようなものや他に例を見な

い独特なものが重要文化的景

観に選定され、国の保護の対



象になります。現在、全国に約70件の重要文化的景観がありますが、地方では過疎化によって、また都市部では開発によって、景観の維持が困難になりつつあり、各地で保存活用の取り組みが行われています。

2、越前海岸の水仙畑の成り立ち

重要文化的景観に選定されたのは福井市下岬地区（居倉町・浜北山町・赤坂町・城有町・八ツ俣町）、越前町上岬地区（梨子ヶ平・左右・血ヶ平）、南越前町糠地区の3地域で、これらの地域では明治の終わりから大正の初め頃に水仙の栽培が始まったとされています。この頃、鉄道など交通網の発達によって、県内だけでなく、関西・中京方面へも水仙が出荷されるようになり、需要が増加したことが要因のようです。元々は浜辺に自生していた水仙を、球根を株分けて斜面に植えて増やしていき、更に昭和から平成にかけては、減反政策等によって柵田だった場所にも水仙の球根を植えることで、今に見るような一面の水仙畑が形成されました。全国的にも珍しい花卉類の景観地であり、重要文化的景観にふさわしいと国から評価されています。

3、「越前水仙」ブランド

越前海岸の水仙（ニホンズイセン）は、他の産地と比べ、葉や茎の芯が強く、花は長持ちし、香りも豊かと高い評価を得ています。厳しい冬の日本海の潮風に耐えながら咲く

ことによる特性なのかもしれません。「越前水仙」のブランド名で出荷される水仙は、特にお正月を飾る花として華道を中心に珍重されています。しかしブランドの価値を維持するため、越前水仙には厳しい出荷規格が設定されており、生け花に適した秀品は、40〜50cmの長さで4枚葉のもののみとされています。その前後の長さのものや3枚葉のものは価格が低くなり、葉が花の莖より短いものや、葉先に赤い点があるものはさらに下がります。越前水仙は露地栽培中心のため品質の維持が難しく、近年は夏の高温などの影響からか出荷規格に適合しない水仙が増えているそうです。

4、水仙栽培の現状と課題

越前水仙は、ピークの1989年には県内全体で570万本もの出荷がありました。現在は100万本に満たない年が続いています。先ほど挙げた規格外的水仙が増加していることのほかに、農家の高齢化や後継者不足で、畑の草刈りなどに十分手が回らなくなっていること、イノシシやシカによる獣害が広がっていることなどがその理由です。特にシカの食害は深刻で、水仙には毒があるにもかかわらず、シカは耐性があり、葉も球根も食べてしまいます。畑を獣害から守るため、柵の設置等の対策も行われていますが、農家だけでそれを維持していくのは大変なことです。このままでは数年のうちに水仙畑が無くなってしまおうと危

惧する農家さんも増えています。

5、「越前水仙カメラ」水仙畑の「いま」を写真で発信

重要文化的景観「越前海岸の水仙畑」を維持していくためには、水仙栽培が継続されていかなければなりません。水仙農家の育成や移住の促進といったことは簡単ではありません。そこで先ずは、水仙畑に興味がありそうな人を呼び込み、その課題と魅力を知ってもらい、情報発信していく活動を始めました。それがローカルフォト「越前水仙カメラ」メンバーとの活動です。カメラを片手に地域に入り、水仙農家さんと触れ合うことで、これまで紹介されてきた「冬の日本海と越前水仙」といった典型的な写真だけでなく、水仙畑や作業場で水仙農家さんがいきいきと作業されている様子や、水仙栽培以外の豊かな生業についても写真に収めることができました。また撮影を通してこの地域に魅了されたメンバーは、草刈りや水仙畑の遊歩道整備にも関わるようになり、その人の輪も徐々に広がっています。これからも地域を元気にできるような写真を撮影していくとともに、水仙畑の魅力を発信することで、越前水仙のファンを増やしていきたいと思えます。皆さんも鮮やかな緑が一面に広がる冬の越前海岸の水仙畑にぜひお越し下さい。



水仙の収穫

水仙農家はそれぞれ道具を工夫して収穫を行う。例えば鎌の先を少し曲げることで、土に埋まった茎の根元を水平に切ることができるようになる。



棚田の水仙畑（福井市居倉町）

昭和初期頃に本格化した水仙栽培は、当初は田畑に適さない傾斜地に球根を植えて増えていったと思われるが、昭和の終わりから平成の初めにかけて、田んぼの減反政策や水仙の特産品化に伴い、それまで稲作が行われていた棚田も水仙畑に変わっていった。この地の文化的景観を象徴する風景である。



急斜面の水仙畑（福井市居倉町）

よく見ると急斜面で作業を行う農家さんが写っている。普通の人では立っていることさえ難しい場所で収穫作業が進む。水仙は水はけのよい場所を好むため、このような斜面でこそ良質な水仙が育つ。

講師略歴……藤川 明宏（ふじかわ あきひろ）

昭和53年、越前町（旧朝日町）生まれ。福井市立郷土歴史博物館学芸員。早稲田大学卒業後、平成13年より福井市立郷土歴史博物館の学芸員として勤務。主に歴史考古学や仏教美術の調査研究・展示に携わる。

平成29年度から令和3年度まで、福井市文化財保護課に勤務し、重要な文化的景観「越前海岸の水仙畑」の調査や保存活用計画の策定を担当した。現在、「ローカルフォト」「越前水仙カメラ」メンバーとともに、越前海岸の水仙畑の魅力を発信している。

感想文のコーナー

このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。

■十月二日放送（第二十七回）

気候変動から気候「危機」へ
私たちの住む地球はどうなっていくのか

吉良 真由子 先生の感想文より

▼前川 康子（二十四番）

今年の夏は猛暑続きの異常さが怖かったです。気候変動の影響で農業、漁業、ド力雪、土砂崩れ等、日常生活を脅かされるのは恐いです。最近では今庄地区や河野地区の知人宅も大変でした。

今朝のお話でこのままでは地球はどうなっていくのか心配です。私達が個人としてできることは、ゴミ焼却を止め二酸化炭素を出さないようにすることや森林業を発展させ森を大切にすること等。子や孫達が安心して住める大地になるよう心がけましょう。気候危機に直面していることを認識するいいお話でした。これからは天気予報に目を向けていきます。

▼高石 まゆみ（百六十五番）

今年の夏の暑さは尋常でなかったです。暑い暑いと言った翌日は急に寒くなり、秋の爽やかさがあまり実感しないうちに寒くなってきたような・・・四季という日本の季節が少しずつ変っていくような気がします。これも気候変

動の影響なのかもしれません。

先生のお話では、過去30年の福井県の平均気温が14.8度、意外と低いので驚きました。平均気温が100年で1.6度上がっているとのこと。遠い未来には4度も上昇するとは想像がつかえません。

気温の上昇を遅らせるため、家庭から出るゴミや資源を無駄にしないことなど、私たちは小さなことから積み重ねていかなければと思いました。

平成16年に福井県嶺北を襲った集中豪雨の時からか、ゲリラ豪雨が全国各地に被害をもたらしました。この年「ゲリラ豪雨」は、新語・流行語大賞のトップ10になったことを思い出しました。この数年は『線状降水帯』などと言われています。台風シーズンや梅雨の季節の天気予報は、目が離せません。

■十月九日放送（第二十八回）

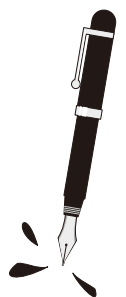
米から考える

日本の暮らしとSDGs

一矢 典子 先生の感想文より

▼村寄 百合子（二十八番）

御食国若狭おばま食文化館へは随分前に一度行ったことがあります。そこに「米から考えるSDGs」が設置し



であるとのこと。SDGsとは持続可能な開発目標のこと
で初めて知った言葉です。

私は農家に嫁いだので藁や粃、糠を利用し米一粒も大切に
していました。近年は食生活が大きく変化し米の消費量は
昭和37年から令和2年までに半分以下に減ったとのこと。
あんなにおいしい米がどうしてそうなったのか不思議な気
がします。昭和の頃は祭りにはおはぎや赤飯、祝い事にも
赤飯、正月、盆には餅を作って皆で楽しくいただき絆を深
めていったものです。

また、環境にやさしい「バイオマスマーク」「福井県特
別栽培農産物の認証マーク」の商品があることを教えてい
ただきました。地元でとれた米を食べ、地元の食材をな
るべく使って、農業の活性化を図ると共に心も身体も元気に
なってほしいです。米どころ福井、米の良いところはいつ
までも残していきたいと思います。ありがとございました。

▼酒井 匠 (八十四番)

世界で生産されている食べ物の約3分の1が食べずに捨
てられています。日本では国民一人あたり毎日約茶碗一杯
分の食料を捨てているとは驚きであり、とても残念なこと
です。

我が国の食料自給率は令和3年には38%と海外の国と比
べ大変低い。海外からの輸入が止まると現在の食生活をお
くることが困難になります。

地元で作られた米や野菜を食べることで環境への負荷を

減らすことができ、地元農業の活性化にもなります。農薬
の少ない安全な国産の食品で健康な生活を送りたいもので
す。

■十月十六日放送 (第二十九回)

工業技術センターの技術が暮らしを変える

～福井県工業技術センターの研究取り組みについて～

後藤 基浩 先生の感想文より

▼山場 太郎 (八番)

福井県工業技術センターは明治35年(1902年) 繊維
系の工業試験場として設立された我が国で最も古い公設試
験研究機関です。運営されて120年経過していることは
誇るべき歴史だと考えます。繊維や眼鏡は基幹産業となっ
て発展してきました。

私の工業試験場への印象が強いのは、父が絹織物の会社
社長で織物設計表や試織品を持って試験場通いをしていた
からです。ジャガード機で織る紋織物は穴の開いた紋紙が
多数使われていましたが、IT、デジタル技術の進化でコ
ンピューターにより紋紙を使用しない織り方になりました。
豊田織機で見学して進歩に感動したのです。

福井県では長期ビジョンをつくり「とんがりコーン」
を合言葉に尖った技術を伸ばす産学官金(企業、大学、高専
金融機関)連携であらゆる技術開発を推進しています。高
度な研究技術開発で毎日の生活はどのように変わるのか興
味を持って見ていきたいです。

▼小山 美令（二百四十一番）

福井県工業技術センターが明治二十五年に繊維系の工業試験場として設立された、わが国でもっとも古い公設試験研究機関だということを知りました。福井の繊維産業、眼鏡等の製造業を技術面から支え、今も「技術支援」「研究開発」「技術移転」の3本柱で活動されていることは、すごいことだと思います。

社会課題として「デジタル技術の進化に対応したシステムの変革」「労働不足や働き方改革」「2050年に向けたカーボンニュートラルや再生エネルギーの活用」などあるが、日々変化する中で「福井県長期ビジョン」をたちあげる。技術を伸ばすことにより社会問題を解決できる産業の創出を目指す。ということで、「宇宙分野」「灰素繊維分野」「ヘルスケア分野」「A・O・T・ロボット分野」「エネルギー分野」の5つの分野で具体的に進めている内容が書かれていて「すごいなあ」と思っばかりでした。また消費エネルギーゼロの建物が出来たらいいなあと思いました。日々の努力に感謝です。

■十月二十三日放送（第三十回）

ボランティアで町おこし活動

酒井 敏雄 先生の感想文より

▼坂田 良子（二百二十六番）

行動力がすごいギャラリーと図書館を兼ねたカフェと

地元の農産物や手芸品を扱う売店に今年からは食堂までも人が集まり町をどうするかと語り合う場を作られたことが成功だと思っています。荒れた竹やぶの再生を目指し門松づくりもされてもいます。毎年参加される方が9割。その方たちが指導者になって活動は引き継がれていきます。門松は回収して「どんど焼き」をして、さらにその灰を花壇の肥料に利用。素晴らしい循環です。地域のために働き、地域によっていかされている人々。生きがいとなって益々アイディアがでてきて、街はよくなるでしょう。

▼齋藤 優（二十一番）

町おこし活動の地域貢献で大活躍されておられる先生の日常生活が大変ご多忙の様子であることが分かりました。また、これまでも現職時代は繊維関係の会社等で要職を務められ、退職されてからも区長や区長会長を3回も担当され細呂木地区の発展に寄与、現在はNPO法人を立ち上げられて会長をされておられるということです。

私は先生のバイタリティに心から感服しました。

実はテキストを事前に読ませていただき講座の前日にJRで細呂木駅まで出かけて現地を見に来ました。駅の架線橋から「らくぐさ」の文字が建物の横に見えてきました。駅前には酒屋さんとはばこ屋さんがあり通りは閑散としていました。横断歩道を渡って右側の「らくぐさ」の建物の中に急いで入っていききました。屋内に入って最初の印象は部屋の中がとても明るくお客がすでに数人食事をしておら

れ女性スタッフの方が4人忙しそうに面接されていて活気ある雰囲気でした。靴を脱いでスリッパに履き替え室内に入りました。椅子席は十数席ぐらいいましたが、空いている席に腰かけ室内の展示物を見ました。風景写真が掲げてあり右側の棚には図書類がびっしり詰まって並べてありました。また、細呂木地区創成会が杉本知事から令和2年に緑化推進活動の業績が誠に顕著であるということで感謝状が授与されその額が掲げてありました。お昼も過ぎて空腹でしたのでカレーライスとおろしそばを美味しくいただきました。事務をとっておられた女性に先生の所在を訪ねたところ今「宮谷の石切り場跡」へお客さんの案内で出かけておられるということでした。話の相手をしてくださったのは先生の奥さんでした。ありがとございました。

■十月三十日放送（第三十一回）

世界の幸せ調査結果から見えてくる
地域づくりのポイント

高野 翔 先生の感想文より

▼山田 寿美（七十二番）

自分は幸せな生活を送っているかと、実感できる考え方にウェルビーイングがある。その要因はいくつかあるが、日本は「生活評価」は世界の中で56位、生活の中の「否定的感情」は15位、「健康寿命」は2位等、項目によって評価は異なる。具体的には、福井を幸せな社会に築き上げていくために「社会的関係性」として人とつながり頼ること

のできる「居場所」があるか、もう一つは自分を表現し、活躍したりする「舞台」（自己決定感）があるかの二つが地域づくりの重要な物差しとなる。「幸せである」と感じられるための要因は種々考えられるが本日は初めて聞く言葉や内容に戸惑いを感じながらも大いに参考になった。

▼山下 博（七十四番）

先生は2014年から3年間、ブータン王国で、幸せウェルビーイングを起点とした国造り支援に従事された。2012年の国連「世界幸福度報告書」では、「生活の評価」と「感情体験」の2大力テゴリーから数値化を試みている。後者では、肯定的感情と否定的感情の程度から観測する。

また、ウェルビーイングの6つの要因、即ち、2つの客観的要因と、4つの主観的要因から数値化を行う。最後に、それらを踏まえた日本及び福井の課題として、取り組むべき要因と大事なポイントを浮かび上げらせており、大いに参考になる。



文芸欄

川柳

俳句

落ちて飛ぶ弾丸のごと群雀
重い空一太刀入れたし雪の日々

中野 利子(百三十一番)

沖縄へラインで送る雪たるま
マスク越し笑顔はじける改札口

江守 和子(二百二十二番)

秋寒や急須に注ぐお湯嬉し
冬構え兄弟寄って早々と

小山 美令(二百四十二番)

買い回りの品時間掛けても買いに行く
POPには捨て値と書いて捌けてます
買い得品「買い物です」と勧められ

山下 博(七十四番)

赤トンボ集団飛び交う狭き畑
赤トンボ遊び誘うか我の手に
頭切れそれでもすぎるオンパバッタ

谷川 好枝(四番)



●発行所 (福)福井県社会福祉協議会

●〒910-1852 福井市光陽 1-3-22

●電話 (0776) 241-4331
FAX (0776) 241-0041